

2026/3/25

PRESS RELEASE

大原記念財団、AWS ジャパンとスマートホスピタル 実現に向けた包括連携協定を締結し、持続可能な医 療提供を目指す

生成 AI による医療業務の効率化とサイバーセキュリティ対策強化、AI 人材育成を推進

この度、一般財団法人大原記念財団（所在地：福島県、以下「大原記念財団」）は、アマゾン ウェブ サービス ジャパン合同会社（本社：東京都、以下「AWS ジャパン」）とスマートホスピタルの実現に向けた包括連携協定を締結いたしました。

本連携により、生成 AI およびクラウド技術を活用した医療デジタルトランスフォーメーション（DX）を推進し、医療の質向上、業務効率化、患者利便性の向上を目指します。さらには院内での AWS に精通した AI クラウド人材育成を通じて、福島県域における医療の質の向上と持続可能な医療提供体制の強化を目指します。

両者は本協定のもと、2026 年度から 2028 年度の第 1 期 3 か年において医療 DX の基盤整備と生成 AI 活用の拡大を推進します。

つきましては、本包括連携協定およびその取り組みについて、以下の日時に記者説明会を開催いたします。

※詳細は次項以降の資料を参照下さい。

記

日時：2026 年 3 月 27 日（金）13:00

場所：大原記念ホール（福島市上町 5-6 上町テラス 2F）

以上



大原記念財団
OHARA MEMORIAL FOUNDATION

大原記念財団、AWS ジャパンとスマートホスピタル実現に向けた包括連携協定を締結し、持続可能な医療提供を目指す

生成 AI による医療業務の効率化とサイバーセキュリティ対策強化、AI 人材育成を推進

2026 年 3 月 25 日

一般財団法人大原記念財団（所在地：福島県、以下「大原記念財団」）は本日、アマゾン ウェブ サービス ジャパン合同会社（本社：東京都、以下「AWS ジャパン」）とスマートホスピタルの実現に向けた包括連携協定を締結したことを発表しました。本連携により、生成 AI およびクラウド技術を活用した医療デジタルトランスフォーメーション（DX）を推進し、医療の質向上、業務効率化、患者利便性の向上を目指します。さらには院内での AWS に精通した AI クラウド人材育成を通じて、福島県域における医療の質の向上と持続可能な医療提供体制の強化を目指します。両者は本協定のもと、2026 年度から 2028 年度の第 1 期 3 か年において医療 DX の基盤整備と生成 AI 活用の拡大を推進します。

■ 背景と目的

日本の医療現場では、超高齢化社会の進展と 2040 年問題（生産年齢人口の急減）を背景に、医療従事者の業務負担増大と人材不足が深刻な課題となっています。政府が推進する「医療 DX 令和ビジョン 2030」においても、電子カルテのクラウド化・医療情報の標準化・サイバーセキュリティ対策の強化が急務とされています。

大原記念財団は、1892 年の開院以降、134 年にわたり福島県北医療圏の地域医療を担ってきました。医療従事者の成り手不足が予測される 2040 年を見据え、「医療従事者が本来の業務に専念できる環境づくり」が最重要課題と位置づけ、いち早く生成 AI の実証に着手してきました。AWS ジャパンの技術支援を受け実施した生成 AI を活用した退院サマリーの自動作成の初期検証では、従来比 50%以上の業務効率化が可能であることを確認しており、この取組をさらに加速するため、AWS ジャパンとの包括連携協定を締結しました。

■ 連携の主な内容

本連携において、両者は以下 3 つの柱の取り組みを推進します。

1.生成 AI を活用した医療業務の効率化

- ロボティック プロセス オートメーション (RPA) と生成 AI を組み合わせた**退院サマリー**の自動作成 (2026 年 4 月より本番稼働開始予定)
- 看護サマリー等の自動作成による**看護業務の効率化**
- 病床管理の最適化、診断群分類 (DPC) に応じた入院期間自動表記、KPI 日次集計の自動化

2. 診療情報のクラウド基盤の整備とサイバーセキュリティ対策強化

- 電子カルテのクラウド化推進
- 当財団で運営する医療施設間の情報共有を支えるクラウド基盤の導入
- 医療情報のセキュリティ対策強化

3. 人材育成

- AWS に精通した AI クラウド人材の育成
- 医療 DX を推進する院内人材の継続的なスキルアップ

■ 両者コメント

一般財団法人大原記念財団 理事長兼統括院長 佐藤 勝彦

「大原記念財団は、『人を愛し、病を究める』を理念に掲げ、地域住民の健康を守ることを最大の使命として歩んでまいりました。東日本大震災という未曾有の危機においても地域医療を守り抜いた経験から、医療の持続可能性を確保するためには、デジタル技術の積極的な活用が不可欠であると確信しています。

2024 年度に医療 DX 企画室を新設し、AWS ジャパンとの連携を通じて院内各部門の業務効率化を推進してまいりました。既に生成 AI を活用した『退院サマリー』の実証が成果を上げており、2026 年 4 月からの本番稼働に向けて確かな手応えを感じています。今後も、看護サマリーの自動作成をはじめ、医療の質向上と働き方改革の両立に向けた取り組みを加速してまいります。」

アマゾン ウェブ サービス ジャパン合同会社

パブリックセクター統括本部ヘルスケア & アカデミア事業本部長 大場 弘之

大原記念財団様との連携により、AWS の生成 AI とクラウド技術が日本の医療現場の課題

解決に貢献できることを大変うれしく思います。AWS は昨年発表したヘルスケア・ライフサイエンス業界における戦略的ビジョンのもと、医療データを統合的に活用する医療機関・団体支援しています。本取り組みが日本全国の地域医療機関における医療 DX 推進のモデルケースとなることを期待しています。

■ 医療現場の声

総合診療科 医師 菅藤 賢治

「これまで退院サマリーの作成には1件あたり30~60分を要しており、深夜まで対応することも珍しくありませんでした。生成AIが電子カルテの情報を自動的に整理・文書化してくれることで、医師本来の業務である患者さんとの対話や診断・治療に集中できる環境が整うことに期待しています。」

医療アシスタントチーム 宍戸 恵子

「RPAと生成AIの組み合わせにより定型的な入力・転記作業が自動化されれば、私たちも患者さんの対応や医療チームのサポートにより多くの時間を使えるようになります。現場全体の負担軽減につながると大きく期待しています。」

■ 大原記念財団について

大原記念財団は、1892年の開院以来134年にわたり、福島県北医療圏（福島市を中心とする福島県北部地域）において地域医療の中核を担ってきた民間病院です。現在、急性期・回復期・精神科・在宅・予防の5つの機能を有し、年間約4,500件の手術、3,300件以上の救急車受入れ、延べ約160,000人の入院患者へ医療サービスを提供しています（※数値要確認）。

「人を愛し、病を究める」を理念に掲げ、2018年の新病院棟開院による急性期・回復期の機能分化、2025年の清水病院と大原医療センターの統合（199床）による心の医療を兼ね備えた総合回復期病院など、将来を見据え地域の医療ニーズに応える体制を継続的に整備してきました。2024年度には**医療DX企画室**を新設し、デジタル変革への取り組みを本格化しています。

■ 本件に関するお問い合わせ

一般財団法人大原記念財団 経営本部経営企画課

〒960-8611 福島県福島市上町6番1号

TEL：024-526-0300（代表）

E-mail：nagamine@ohara-hp.or.jp